



2020年2月 6日発行 会報第1005号

今週のプログラム

(2020年 2月 6日第1005回例会)

「今、思うこと」

担当：黒川 彰夫会員

次週のプログラム

(2020年 2月13日第1006回例会)

「ファイヤーサイドミーティング」

(会長主催②)

担当：木下 健治会長

第1004回例会 (2020年1月30日の記録)

<会長の時間>

木下 健治会長

皆様、こんばんは。本日は山本先生、ようこそいらっしゃいました。卓話もよろしくお願ひ致します。また、地区社会奉仕委員の平山様もようこそいらっしゃいました。献血のPRとのことで、後程よろしくお願ひ致します。武漢発のコロナウィルスが、猛威を振るっています。昨日は、武漢からの中国人観光客を乗せていた奈良の観光バスの運転手が感染したとのことで、人から人に移るの間違いはないでしょう。その運転手から感染した人が出てきたら、さらに広がるので、私たちも他人事ではなくなります。政府も今回は武漢にチャーター機を飛ばして、現地の日本人が200人ほど帰国しました。その中でも数人にコロナウィルスの可能性があります。政府の対応も遅きに失した感があります。アメリカや他の国は武漢からの入国者を別室に隔離する等対応が早かったですが、日本は健康カードを渡すくらいで、ちょっと甘すぎるのではないかと思います。あまり報道されませんが、武漢は相当混乱しているようです。薬や医療器具も足りず、現地の医師から悲痛な叫びも漏れてきています。武漢を封鎖し、武漢に感染者全員を収容できる病院を1週間で作るとか言って、ユンボが数十台投入されている写真もアップされたりしています。ただ、中国政府の発表も遅かったのではないのでしょうか？もっと早くにわかっていたと思います。なぜ当初は発表しなかったのか？何か不都合なことがあったのか？何らかの理由で流出してしまったのかもしれませんが。ただ今回の件で、人やモノの流れが止まってしまうので、経済の悪化が予想されます。ちょうど春節の時期で、中国人の日本への観光客もこれからという時に鼻をくじかれた格好です。これに限らずモノが動かないと経済は回りません。世界景気は回復に向かおうとしていた矢先なので、早く収束することを願ひます。

<お客様>

関西大学 国際部副部長 山本 英一教授 ゲストスピーカー
吹田ロータリークラブ 平山 直樹様 献血活動の PR

<出席報告>

黒川 彰夫 SAA

会員数 (内出席免除会員 0 名) 19 名
本日の出席者数 16 名
(内免除会員 1 名)
(名誉会員 0 名)
本日の出席率 84.21 %

<ロータリーソング>

全会員

♪「それこそロータリー」

<本日のピアノ曲>

近藤 美里さん

1. 静かな歌と共に
2. Sunrise, Sunset
3. Everybody Loves Somebody

<幹事報告>

木下 健治 会長

- 1 財団・米山それぞれの確定申告用寄付領収書を各会員別に封筒に入れてありますので、受付でお持ち帰りください。
- 2 山本加奈子様に 1 月 24 日、今年度の活動資金 40 万円を送金しました所、返信メールが届きましたので回覧致します。
- 3 後期プログラム 19-6 を全会員のレターケースに配布致しました。2 月 27 日のプログラム内容急遽変更に伴い、卓話者の日程変更・卓話番号の変更などが生じました。
- 4 「抜粋のつづり」が届きましたので、全会員のレターケースに配布致しました。

<委員会報告>

特になし

<吹田ロータリークラブ 平山 直樹様 献血活動の PR>

ローターアクト第 2 回地区献血活動のご案内

日時 2020 年 2 月 16 日 (日) 雨天決行 集合 9:50 開始 10:00 終了 16:00 (予定)

場所 ①イオン大日前 ②京橋駅前 ③樟葉駅前 ④梅田 HEP 前 ⑤難波バス停横

活動内容 ①400ml 献血の実施 ②街頭での一般の方への献血の呼びかけ、PR

③RAC 活動の PR (アンケートの実施)

実施責任者 ホストクラブ 大阪中央ローターアクトクラブ

ホスト提唱クラブ 大阪中央ロータリークラブ

詳細は、本日 レターケースに配布しましたパンフレットをご確認願います。

多くの方のご参加をお願い致します。

<SAA報告>

西本 明文 SAA 補助

*スマイルボックス

西本 詩子会員 : 新年の余韻の残る あわただしい毎日です。

コメントなし : 西本 明文会員

*ロータリー財団

藤田 芳浩会員 : 新例会場は、3月からですね！！

水本 徹 会員 : 山本先生 本日は宜しく申し上げます。

※米山記念奨学会

柳原 健治会員 : 今年、波乱の年になりそうです。

コメントなし : 山本 雅之会員

※ラオス基金

相原 正雄会員 : スマートホンにしました。

藤田 芳浩会員 : 新型コロナウイルス大変です！！

西本 詩子会員 : 新型コロナウイルスの感染が広まりません様に。

コメントなし : 西本 明文会員

※メイプル基金

藤田 芳浩会員 : 本日、ゲストスピーカーの山本英一様 宜しく申し上げます。

木下 健治会員 : 今日、山本先生 卓話よろしく申し上げます！

黒川 彰夫会員 : 山本先生 今日、よろしく申し上げます。

西本 明文会員 : 寒い日 又続きます。

松田 親男会員 : もっともっと増えると思います。防ぎようがなくなってます。

水島 洋 会員 : 山本教授 本日は、よろしく申し上げます。

山本 友亮会員 : 山本教授 よろしくお願い致します。

柳原 健治会員 : 忙しくて釣りに行けません！あ～あ。

コメントなし : 西本 詩子会員

<卓話>

本日のゲストスピーカー

関西大学 国際部副部長

国際教育センター長

山本 英一 教授

英語とともに50年

英語に出会ったのが1970年。その後50年間、英語に接してきた者として、お話をさせていただきます。

私の専門は語用論。場面の中で、表現がどのような意味を伝えるかを明らかにすることです。たとえば、“How old are you? (年齢は?)”という質問も、父親が息子に向かって発すると、「お前はいい年をして何をしている!」という非難にもなり得ます。これを「推意」といって、いわゆる「言外の意味」のことです。

一方、辞書に載っているような、場面を考慮する必要のない意味は、意味論が扱います。そこで英語と日本語を比較すると面白い発見があります。たとえば、“climb”という動詞は“登る”という日本語で理解しがちですが、“Taro climbed down the pole”とか“Taro climbed into a taxi”のような言い方がある。この場合、「上に移動する」よりも、「手足を窮屈そうに動かして移動する」という意味が優勢になるのです。二つの言語を単純に一対一対応させることの危うさがお分かりいただけると思います。

日本語と英語では、モノの捉え方も異なります。「雪国」の冒頭の一節、「国境の長いトンネルを抜けるとそこは雪国だった」は、英語にすると“The train came out of the tunnel into the snow country”になる。しかし、この英語が描写する状況は、「真っ暗な車窓が真っ白な景色に変化する驚き」といった、私たちが心に浮かべるイメージとは違う。日本語では主語がないけれど、語り手(1人称)の視点が盛り込まれているのです。

そもそも「主語とは何か」。主語(主格)という概念は、西洋言語の説明に欠かせないけれど、日本語では主題(~は)に注目することが重要。西洋流の視点・枠組みを無批判に受容すると、おかしい説明に終わってしまいがち。私たちはこのことを心に銘記する必要があります。

英語(ことば)を観察し、その働きを説明することは難しい。習得にも時間がかかる。しかし、英語を使うことによって得られる知己・知識は、苦勞を補って余りある喜びを与えてくれる、という感想でお話を終えたいと思います。

<編集後記・追加情報・チョット一言・ライブラリー・etc>

本日1月30日の卓話担当でしたので、何か趣向をと思ひまして、先日の第1000回記念例会にもご参集いただきました、関西大学の山本 英一様にご無理を申し上げました。とても楽しく面白いお話しでしたので、またお願いしたいと思ひました。

文責; 藤田 芳浩